

京都社会学年報

第21号
2013年12月

〈論文〉

- 社会科・公民科教育法における「社会参画」の可能性
——コミュニティ・スクールを事例として—— 森田 次朗
- S・フロイトによる「性本能」概念の解体
——精神分析におけるセクシュアリティ—— 古川 直子
- 「名誉白人」によるレイシズム批判とその限界
——連邦期南アフリカの人種政策と日本人の「白人性」をめぐる—— 山本 めゆ

〈書評論文〉

- 保育センターがもたらす予想外の収穫
Mario Luis Small, *Unanticipated Gains: Origins of Network Inequality in Everyday Life*
(Oxford University Press, 2009) 戸江 哲理
- 「遺伝」概念の歴史を読み解く
Stefan Müller-Wille and Hans-Jörg Rheinberger, *A Cultural History of Heredity*
(University of Chicago Press, 2012) 山本 耕平
- 中国人および日本人をめぐるレイシズム
——東アジアの人々が「黄人」になった経緯—— サンドロヴィッチ・ティムール
- Michael Keevak, *Becoming Yellow: A Short History of Racial Thinking*
(Princeton University Press, 2011)
- 誰でもない誰かのために
——コスモポリタニズムと普遍的個人の概念化—— 中村 昇平
- Nigel Rapport, *Anyone: The Cosmopolitan Subject of Anthropology*
(Berghahn Books, 2012)
- 福祉国家が存続する理由
——民主国家における世論の重要性—— 池田 裕
- Clem Brooks and Jeff Manza, *Why Welfare States Persist: The Importance of Public Opinion in Democracies*
(University of Chicago Press, 2007)
- エロティシズムと親密性の再構成
——われわれが勝ち取ってきた世界—— 山下 泰幸
- Jeffrey Weeks, *The World We Have Won: The Remaking of Erotic and Intimate Life*
(Routledge, 2007)
- 子どもの歴史社会学的研究
——アクター・ネットワーク理論からのアプローチ—— 姚 逸葦
- André Turmel, *A Historical Sociology of Childhood: Developmental Thinking, Categorization, and Graphic Visualization*
(Cambridge University Press, 2008)

[編集規定]

1. 本誌は京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室の機関誌として、年1回発行する。
2.
 - 1) 本誌の編集は、「京都社会学年報」編集委員会の責任のもとに行われる。
 - 2) 編集委員会は本研究室の教員および大学院生代表者により構成される。
 - 3) 編集委員会に関するその他の細目は別に定める。
3. 本誌には、研究論文のほかに、書評論文、資料等の欄を設ける。
4.
 - 1) 本誌の投稿者は、原則として京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室に所属する専任および非常勤の教員、ならびに大学院生・研修員、研究生とする。
 - 2) 投稿に関する細目は別に定める。
5. 論文等は、未公刊のものに限る。
6. 論文等は、編集委員会によって審査され、その掲載について検討される。
7. 本誌に掲載された原稿の著作権は、社会学研究室に帰属するものとする。著作者が本誌に掲載された文章を再録しようとする場合は、事前に本研究室に届け出る。
8.
 - 1) 論文等の原稿は、所定の執筆要項に準拠したものに限る。
 - 2) 執筆要項は別に定める。

目次

〈論文〉

- 社会科・公民科教育法における「社会参画」の可能性
—— コミュニティ・スクールを事例として —— 森田 次朗 1
- S・フロイトによる「性本能」概念の解体
—— 精神分析におけるセクシュアリティ —— 古川 直子 23
- 「名誉白人」によるレイシズム批判とその限界
—— 連邦期南アフリカの人種政策と日本人の「白人性」をめぐって —— 山本 めゆ 41

〈書評論文〉

- 保育センターがもたらす予想外の収穫 戸江 哲理 55
Mario Luis Small, *Unanticipated Gains: Origins of Network Inequality in Everyday Life*
(Oxford University Press, 2009)
- 「遺伝」概念の歴史を読み解く 山本 耕平 63
Stefan Müller-Wille and Hans-Jörg Rheinberger, *A Cultural History of Heredity*
(University of Chicago Press, 2012)
- 中国人および日本人をめぐるレイシズム サンドロヴィッチ・ティムール 71
—— 東アジアの人々が「黄人」になった経緯 ——
Michael Keevak, *Becoming Yellow: A Short History of Racial Thinking*
(Princeton University Press, 2011)
- 誰でもない誰かのために 中村 昇平 81
—— コスモポリタニズムと普遍的個人の概念化 ——
Nigel Rapport, *Anyone: The Cosmopolitan Subject of Anthropology*
(Berghahn Books, 2012)
- 福祉国家が存続する理由 池田 裕 89
—— 民主国家における世論の重要性 ——
Clem Brooks and Jeff Manza, *Why Welfare States Persist: The Importance of Public
Opinion in Democracies*
(University of Chicago Press, 2007)
- エロティシズムと親密性の再構成 山下 泰幸 97
—— われわれ勝ち取ってきた世界 ——
Jeffrey Weeks, *The World We Have Won: The Remaking of Erotic and Intimate Life*
(Routledge, 2007)
- 子どもの歴史社会学的研究 姚 逸葦 105
—— アクター・ネットワーク理論からのアプローチ ——
André Turmel, *A Historical Sociology of Childhood:
Developmental Thinking, Categorization, and Graphic Visualization*
(Cambridge University Press, 2008)

〈執筆者紹介〉（掲載順）

インターネットが利用可能な方は、社会学研究室ホームページ (<http://www.socio.kyoto-u.ac.jp/>) をご参照ください。

森田 次朗
非常勤講師

教育社会学・地域社会学。「オルタナティブ教育」と呼ばれる教育活動の事例から、近代公教育制度ならびに近代学校文化のあり方を再考することを目指している。（「オルタナティブ・スクールにおける『自由』と『選択』——アモクラティック・スクール M の事例から」『ソシオロジ』第 58 巻 2 号、2013 年、「現代日本社会におけるフリースクール像再考——京都市フリースクール A の日常実践から」『ソシオロジ』第 53 巻 2 号、2008 年）

E-mail: morijiro1981@gmail.com

古川 直子
日本学術振興会特別研究員 PD

S・フロイトの精神分析研究、ジェンダー／セクシュアリティ論。（「『セクシュアリティ』概念再考——精神分析の導入に向けて」『ソシオロジ』第 54 巻 1 号、2009 年、「精神分析の情動論の基盤」『京都社会学年報』18 巻、2010 年「精神分析における自己の物語論的構成」『ソシオロジ』第 58 巻 1 号、2013 年）

山本 めゆ
博士後期課程 3 年次

人種・エスニシティ論、国際移動研究、地域研究（南アフリカ）。20 世紀南アフリカにおける人種政策・移民政策と、日本人や華人らの「白人性」に関する再検討を目指している。（「人種概念としての『名誉白人』——アパルトヘイト期南アフリカの日本人コミュニティに注目して」『ソシオロジ』第 56 巻 3 号、2012 年）

E-mail: meyu.yamamoto@gmail.com

戸江 哲理
日本学術振興会特別研究員 PD（奈良女子大学）

コミュニケーション論・家族社会学。主に会話分析の立場から子育て支援サークルの調査・研究を進めている。研究業績に「子育て支援サークルの会話分析」（京都大学大学院文学研究科 2011 年度博士論文）などがある。

山本 耕平

博士後期課程 3 年次

科学社会学、科学計量学。とくに、集団遺伝学および進化生物学をめぐる論争史の分析。("Winsor's Challenge to the 'Essentialism Story' in Biology," *Kyoto Journal of Sociology*, Vol. 20, 2012)

E-mail: surucucu.ky@gmail.com

サンドロヴィッチ ティムール

博士後期課程 3 年次

文化社会学、日本人論、チェルノブイリとフクシマの比較研究。('ロシア/ソ連の日本論——その多様性と共通性をめぐって'、『京都社会学年報』第 19 号、2011 年)

E-mail: brovary84@gmail.com

中村 昇平

博士後期課程 2 年次

エスニシティ研究、とくにインドネシア、ジャカルタ大都市圏にオランダ植民地期から居住してきた「バタヴィア先住民」ことブタウィ人 Betawi の研究。

池田 裕

修士課程 2 年次

比較福祉国家研究。

山下 泰幸

修士課程 1 年次

セクシュアリティ研究、理論社会学。性行動の変化と社会構造の変化の関連性や、性行動における身体の用いられ方に関心がある。

姚 逸葦

修士課程 1 年次

学校におけるいじめ研究。

E-mail: ywisyao@gmail.com

編集後記

▼「細分化」や「断片化」といったフレーズは、私のような若造が社会学を学び始める前からすでに、社会学の現状を表現するときの常套句として定着しているようです。そして先達は、その問題を乗り越えるべくさまざまな提言を行ってきました。いわく「社会学の共通言語を」、いわく「方法論的基礎づけを」、いわく「古典に還れ」……いずれも一理ある提言ですが、もっと研究者個人のレベルでできることもあるのではないのでしょうか。それは、一言でいえば「もっと読者の顔を見る」ということです。つまり、明瞭な文章表現と、できるだけ多くの人にわかる言葉遣いを心がけ、狭い専門領域でしか通じないジャーゴンはきちんと説明する。これだけでも、細分化を続ける専門領域間の壁を1cmくらいは低くできる。以上のような想いをもって、編集の任に当たりました。度重なる口出しに付き合ってくださいった執筆者の方々に感謝いたします。もちろん、たかだか一回の努力では前進は微々たるものです。読者の皆様には、今後ともさらなるご叱正を賜りたく存じます。最後に、本号の完成までさまざまな面でご尽力いただきました関係者の皆様に、この場をお借りして心よりお礼を申し上げます。

編集委員 文責：(D3 山本耕平)
(D2 中村昇平)、(D2 井口暁)、(D1 徐堯)

▼【京都社会学年報】21号をお届けします。20年前に発刊したときのことを思い出すと隔世の感があります。当時はまだ課程博士を取得することは例外的なことでしたし、今日のような業績主義とは無縁な状況でしたので、院生自身が編集にあたり、お互いに積極的に論文を投稿しレビューするフォーラムを目指して、宝月誠先生の発案で『年報』が誕生したのでした。ともかく三号雑誌にならないようにと試行錯誤を続けましたがあれから20年。今日では、国内外の学会やジャーナルで多くの院生が研究成果を発表するようになりました。しかし自分たち自身で良質の学術雑誌をつくりあげる場として、これからも『年報』の存在意義は大きくなると感じています。今後ともみなさまのご支援を心からお願いいたします。

【京都社会学年報】編集委員会 代表 松田素二

(査読委員)

伊藤公雄 松田素二 落合恵美子 田中紀行 太郎丸博

京都社会学年報 第21号

2013年12月25日発行

編集 京都社会学年報編集委員会
(編集代表 松田 素二)
発行 京都大学大学院文学研究科社会学研究室
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-2758 FAX 075-753-2836
製作 株式会社 田中プリント
〒600-8047 京都市下京区松原通麩屋町東入
TEL 075-343-0006 FAX 075-341-4476



この本はそのまま読むことが困難な方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は発行人へご連絡をください。

《Editorial Regulations》

1. This journal is an annual publication of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University, Kyoto, Japan.
2.
 - i) This journal is edited by the Editorial Board of the Kyoto Journal of Sociology.
 - ii) The Board consists of the professors and postgraduates of the Sociology Department.
 - iii) Details of the regulations of the Board are specially provided.
3. Contributions to this journal may be in the form of articles, review essays, etc.
4.
 - i) Contributors are generally limited to professors and postgraduates of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University.
 - ii) Guidelines for contributors are specially provided.
5. Contributions are limited to previously unpublished articles.
6. Review of contributions is carried out by the Editorial Board.
7. The copyright for each article included in KJS belongs to the Department of Sociology. In cases any article published in KJS is reproduced elsewhere, the author should notify the Department in writing.
8.
 - i) Manuscripts submitted for review must follow the writing guidelines for contributors.
 - ii) The writing guidelines for contributors are specially provided.

Kyoto Journal of Sociology

No.21 December 2013

ARTICLES

Citizen Participation and the Possibility of a Teacher Training Program of Social Studies in Japan:
Collaboration between a Community School and Local Residents in Mihama Town

Jiro MORITA

Dismantling the Concept of "Sexual Instinct":
Freud's Theory on Sexuality

Naoko FURUKAWA

Anti-Racist Racist?:
Race Legislation in the Union of South Africa and "Honorary Whiteness" of Japanese Migrants

Meyu YAMAMOTO

REVIEW ESSAYS

Mario Luis Small,
Unanticipated Gains: Origins of Network Inequality in Everyday Life
(Oxford University Press, 2009)

Tetsuri TOE

Stefan Müller-Wille and Hans-Jörg Rheinberger,
A Cultural History of Heredity
(University of Chicago Press, 2012)

Kohei YAMAMOTO

Michael Keevak,
Becoming Yellow: A Short History of Racial Thinking
(Princeton University Press, 2011)

Tymur SANDROVYCH

Nigel Rapport,
Anyone: The Cosmopolitan Subject of Anthropology
(Berghahn Books, 2012)

Shohei NAKAMURA

Clem Brooks and Jeff Manza,
Why Welfare States Persist: The Importance of Public Opinion in Democracies
(University of Chicago Press, 2007)

Yu IKEDA

Jeffrey Weeks,
The World We Have Won: The Remaking of Erotic and Intimate Life
(Routledge, 2007)

Yasuyuki YAMASHITA

André Turmel,
A Historical Sociology of Childhood: Developmental Thinking, Categorization, and Graphic Visualization
(Cambridge University Press, 2008)

Yiwei YAO